

令和4年度国立山口徳地青少年自然の家教育事業

星をみる会 特別編～絵本の世界へ～

第1回：令和4年9月10日（土）～11日（日）

第2回：令和4年10月8日（土）～9日（日）

【目的】

就学前の子供とその家族を対象に、星空や自然に関する豊かな想像力を育むための、絵本の読み聞かせと天体観察を組み合わせた体験の機会を提供する。

【参加者】4～6歳の未就学児を含む家族・グループ 第1回：9家族36名、第2回：10家族34名

【プログラムの内容】

- 1日目 開会式、絵本おはなし会、フリー読書タイム（子供）、子供の読書に関するワークショップ（大人）、天体観察
2日目 フリー読書タイム、フリー外遊びタイム

「絵本おはなし会」



絵本専門士による絵本の読み聞かせを行った。大型絵本や仕掛け付きの絵本、大型モニタに映し出された絵本を鑑賞したり、講師からの問いかけに応えたりするすがたがみられた。

参加者からは、「子と一緒に読み聞かせをして頂いている感覚が新鮮であり懐かしかった。」「普段読み聞かせ側だけど、きく側になれて絵本の世界を楽しめました。」などの感想が聞かれた。



「子供の読書に関するワークショップ」



子供の読書に対する大人の支援について学ぶ機会として、ワークショップを行った。

参加者からの質問や情報共有なども行われ、「専門的なことをプロから聞いたのでよかった。」「わかりやすいお話で、今後参考にしてみたいことがたくさんみつかったよよかった。」などの感想が聞かれた。

「天体観察」



第1回は「中秋の名月」、第2回は「後の月」を主な対象として天体観察を行った。

大型の天体望遠鏡を使った観察は特に参加者に好評で、「自宅ではむずかしい望遠鏡を使った月や星の観察、最高でした。」「キレイな月を（カメラで）とることが出来て子供も大喜びでした。」などの感想が聞かれた。

【参加者の声】

- ・親も子も知的好奇心を刺激される体験でした。
- ・子どもが後で月を見たとき、うさぎが月の中にいることについて話していた。おはなし会の内容が心に残っていると感じた。
- ・絵本の世界がすごいことを改めて知りました。
- ・天体観察は初めての経験で、望遠鏡をのぞいて、「すごい！ UFOみたい！」とうれしそうなお子の姿に親も嬉しかったです。
- ・大満足の2日間でした！また参加したいと思います。

【成果】

- ・絵本と観察で星の世界を感じることで参加者の知的好奇心を喚起するプログラムになり、参加者満足度の高いプログラムが提供できた。
- ・県内在住の絵本専門士とのネットワークが構築でき、今後の絵本に関する事業展開が期待できる状態になった。

【課題】

- ・ワークショップの際、より参加者と講師の双方向、あるいは参加者同士のコミュニケーションがとれるような進め方を検討する必要がある。
- ・2日目の活動などで、絵本を媒介として参加者同士の交流が深められるような活動を企画する必要がある。
- ・天候の都合により天体観察ができない場合に、幼児に対して伝わりやすい星のプログラムを検討する必要がある。